

夙川学院短大 ○実野 利久  
和田 美幸

1. 家政学は学術としては未熟の域を脱し得ず、まだ未踏の分野が、きわめて広く深いものがある。家政学研究の後進性、その発達を阻害する条件は、どこにあるのだろうか。家庭生活の近代化・科学化をテーマに考察して見ることにする。

2. 女子短大の新生を対象にして、家庭生活の近代化・科学化について、どのような意識をもっているかを調査した。その結果、女子短大生が古い慣習伝統への憧憬が強く、家庭生活の改革への情熱の乏しいことが判明した。家庭生活の民主化・科学化をアメリカの中流家庭への模倣と思考している者が多いことが立証された。

3. 家政学の研究—とくに日本における家政学の研究が、欧米家政学に追従にあってはならない。女子短大生の共産圏の国々の家庭生活への理解が、まったくないことも注意しなければならない。一切の過去を打破して、現在と未来に希望をつないでいる新中国の家庭生活改革の方向など学ぶべきものがあるのではなからうか。家政学も一つの転機にあることが指摘できよう。